

竹原管内景況調査

12月の景況DIは、製造業は好転、非製造業は横ばい

当所では、地域商工業者の景況並びに経済動向等に関する情報の収集・分析を行っています。今号では、令和3年12月に実施しました調査結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

調査概要

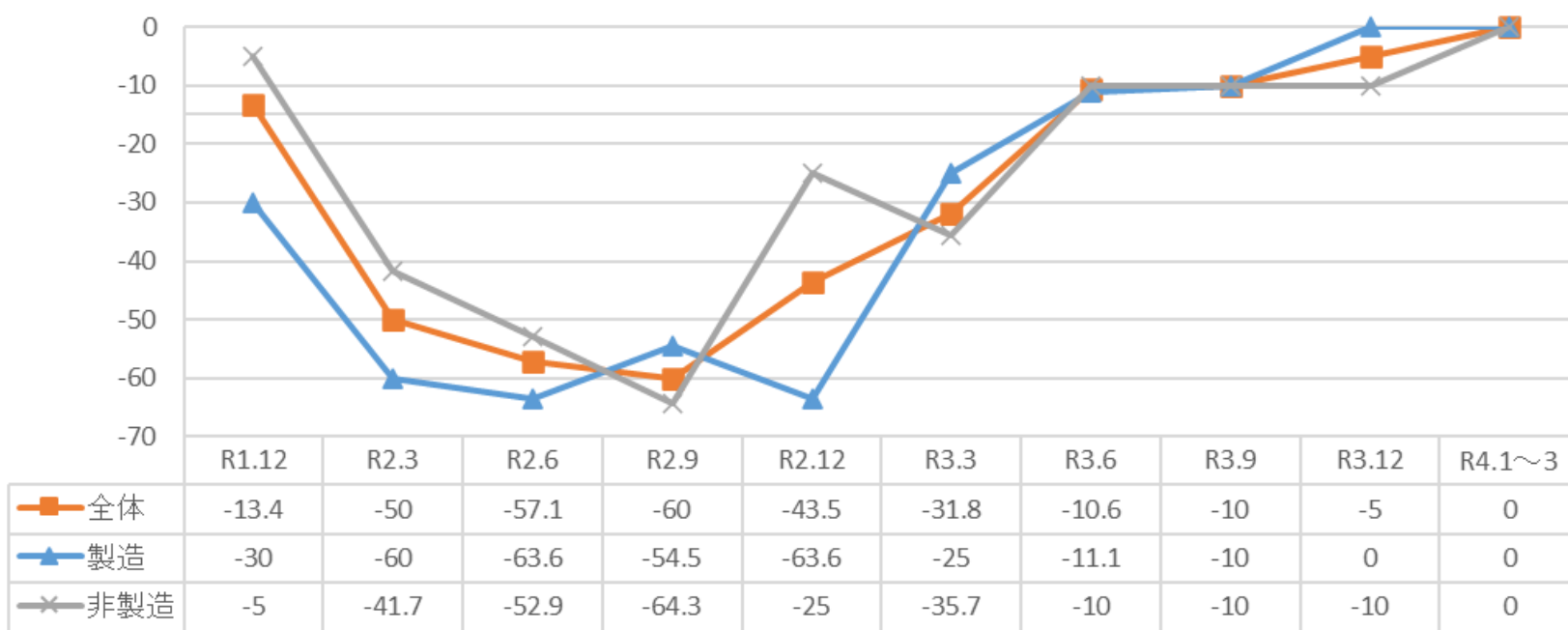
【調査時期】
四半期毎に調査(年4回実施)
【調査期間】
令和3年12月
【調査対象】
当所会員

回答状況

産業	対象事業所	回答数
製造	16	10
建設	5	3
小売	11	4
サービス	15	3
合計	47	20

●全産業におけるDI値

景況DIの推移



12月の景況DI数値は、前回調査と比べて製造業は10ポイント好転し、非製造業同ポイントでした。
12月と比べて1月~3月までの見通しは、全体では、5ポイント好転しています。



※DI(ディフュージョン・インデックス)は、各調査項目についての判断の状況を示します。

ゼロ基準として、プラス値は景気の上向き傾向(「良い」)をあらわす回答の割合が多いことを示し、マイナス値(▲)は景気の下向き傾向(「悪い」)をあらわす回答の割合が多いことを示します。

●景況が好転(悪化)した理由について

《製造業》

- ・昨年のコロナ影響に伴う巣ごもり需要増の反動が今期は出ている。
- ・外出規制が緩和されたが、外食向けやお土産需要は回復がまだ遅れている。
- ・一方で、在宅勤務、リモート会議が定着し、出張費の抑制が進むなど、働き方改革は進んでいる。(食品)
- ・巣ごもり需要で、需要増加の傾向。(農業)
- ・昨年に比べて、コロナの影響が少ない(酒造)
- ・海外で一部を除き、経済活動の復調が進んできたため。(機械)
- ・なかなか本格的によくならない。(機械)
- ・半導体不足による生産の減。(機械)
- ・災害復旧工事の終了。新規工事の減少。(コンクリート)

《非製造業》

◇建設業

- ・平成30年に発生した西日本豪雨災害の発生。(建築)

◇小売業

- ・コロナで集合写真がほとんどなく悪化。(写真)
- ・コロナ減少に伴い、大型店舗にお客様が流出。(スーパー)

◇サービス業

- ・客単価が予想以上に減少したため。(飲食)

(※アンケート全体から一部抜粋しています。)